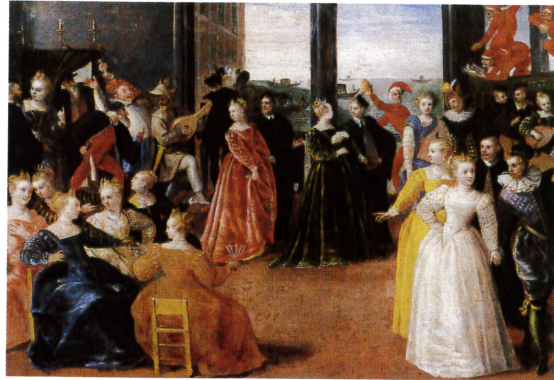


メヌエット

第4回〈東京の夏〉音楽祭1988より
「ルイ14世の宮廷舞踏会」
写真提供：アリオン音楽財団



衣装の特徴は？



パヴァーヌ

ヴェネツィアでの舞踏会・1600年ごろ
ヒエロニムス・フランケン I 世
ズエルモント=ルードヴィヒ美術館 (アーヘン) 蔵
『人間と音楽の歴史 17,18世紀の舞踏』
(音楽之友社) より



音楽の速さは、どのくらいかな？

ヨーロッパの踊り

ピアノ曲を通じて出会うさまざまな楽譜だけでなく、絵や写真も生徒さんのイメージを

ヨーロッパの舞曲。見せることで、膨らませてあげましょう。

何拍子かな？

ポルカ

レコード『POLKA POPS』(RCA CAMDEN CAS-504 1959年制作) ジャケット写真より
写真提供：長嶋和興



どんな音楽が流れていると思う？

マズルカ

ヴォヴィチ地方の踊り
ポーランド国立マゾフシェ舞踏団
写真提供：民主音楽協会



ワルツ

オペラ座舞踏会
(オーストリア・ウィーン)
©芳賀日出男/芳賀ライブラリー



ガヴォット

ガヴォットを踊るカップル
©Lebrecht Music & Arts/
芳賀ライブラリー



チャールダーシュ

写真提供：増永哲男
(フォークロールレポート)
写真 CSARDAS
of BUDAPEST DANCE
ENSEMBLE
<http://www.folklor.com/>

ファンダンゴ

サラゴサのホタ
マリア・ロサ・スペイン舞踊団
写真提供：民主音楽協会



フラメンコ

1992年「ビバ!フラメンコ」より
写真提供：民主音楽協会

どんなリズムだろう・・・

簡潔・明解! 「舞曲」ガイド

保存版

Part1 ヨーロッパ編 「行進曲」の解説付

「この舞曲の特徴は・・・」

「いつ、どこの国で生まれた舞曲だったかしら・・・」

等々、記憶が曖昧で不安になったとき、さっと調べられる「舞曲」ガイドを
岳本恭治先生に作っていただきました。

巻頭カラーページの写真&絵画、地図と一緒に活用ください。

※実はこの企画、ピアノ教室に通っておられるというある男性が、

「マーチとポルカの違いを教えてください」

と編集部へ電話をかけてこられたことがきっかけで、実現の運びとなりました。

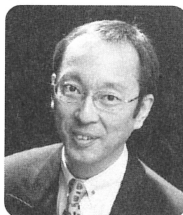
そこで、舞曲のガイドですが、特別に「行進曲」もリストに加えてあります。ご了解ください。

舞曲 通し番号 (丸付き数字) 一覧

※舞曲の解説等は、以下の番号順に掲載されています。

- | | | | |
|--|--|--|----------------------------------|
| ●ア行
アルマンド①
エコセーズ⑩ | ●サ行
ジーク⑥
シチリアーノ⑧
スラブ舞曲⑦
セギディーリア⑭ | ●ハ行
パヴァーヌ⑫
パスピエ⑬
ハンガリー舞曲⑮
ファンダンゴ⑯
フォリア⑰
フラメンコ⑱
ブーレ⑲
ポルカ⑳
ボレロ㉑
ポロネーズ㉒ | ●マ行
マズルカ⑪
ミュゼット⑳
メヌエット⑦ |
| ●カ行
ガヴオット④
カドリユー㉓
ガリアルド㉔
ギャロップ⑭
クーラント②
行進曲⑩
コレンテ③
コントルダンス⑨ | ●タ行
タランテラ㉕
チャールダーシュ㉖
トルコ行進曲⑩ | ●ラ行
リゴードン㉗
レントラー㉘ | ●ワ
ワルツ⑬ |

*「サラバンド」と「シャコンヌ」は、メキシコからスペインに輸入されたので、2009年1月号のPart2「アメリカ編」に掲載いたします。



岳本恭治

たけもと ぎょうじ ●武蔵野音楽大学ピアノ科および国立音楽院ピアノ調律科卒業。英国トリニティカレッジグレード演奏家ディプロマを取得。NHK-FM放送をはじめ演奏活動と共に「ピアノ構造学」「ピアノ改良史」「ピアノ奏法史」の講演、レクチャー・コンサートを国内外で行う。2001年スロヴァキア・国際フンメル協会より「フンメル賞」を授与される。著書「ピアノを読む」(音楽之友社)、「江戸でピアノを」(未知谷)など多数。現在、日本J.N.フンメル協会会長。スロヴァキア・国際フンメル協会名誉会員。国立音楽院講師。2006・7・8年度東京/神戸芸術センター記念ピアノコンクール審査員。全日本ピアノ指導者協会(PTNA)正会員。公式ホームページhttp://juhummel.com

1 アルマンド allemande ドイツ

アルマンドは、フランス語で「ドイツ風の」という意味です。バッハやヘンデルが作曲したバロック時代の組曲を構成する基本舞曲の一つです。15世紀の舞踊が起源とされていますが、16世紀中ごろ(1550年ごろ)、ドイツのライプティク地方に発生した中庸なテンポの2拍子系の舞曲が基本となっています。1600年ごろまでは、アルマン(alman)、アルメル(amayne)と呼ばれていました。17世紀には、踊りではなく、鍵盤楽器等のための4分の4拍子のアウフタクトで始まる舞曲として、組曲の冒頭に置かれるようになり、(プレリュードがある場合は、その後)置かれます。

2 クーラント courante フランス

クーラントは、フランス語で「走る」「流れる」という意味です。16世紀に起源を持ち、16-18世紀に宮廷舞曲として採用され、また器楽曲としても流行しました。バッハやヘンデルのバロック時代の組曲を構成する基本舞曲の一つです。ルイ14世(在位:1643-1715)の宮廷で、特に好まれました。2分の3拍子か4分の6拍子で、この2つの拍子がしばしば入れ替わりつつ進む荘重な舞曲です。組曲では、アルマンドの後に置かれます。(例:J.S.バッハイギリス組曲第6番)。

3 コレンテ corrente フランス・イタリア

②のクーラントは、17世紀(1650年ごろから)、イタリアで独自の発展を遂げました。それをコレンテと呼びます。ジグザグに走るような急速な踊りです。4分の3拍子か8分の3拍子で、常に速いテンポで走り回るような曲は、単調明快。アルペジオ的な音型が多く見られます。クーラント同様、組曲ではアルマンドの後に置かれます。(例:J.S.バッハフランス組曲第6番)。

4 ガヴオット gavotte フランス

フランスのブルターニュ地方を起源とする民族舞踊で、ガブ(Gab)という地域に住むガヴォ(Gavots)と呼ばれる人々が、この舞曲の名称の由来となりました。16世紀のブランル(フランスの民族舞踊で、拍子テンポ、踊り方は地方によって異なる)の一種です。17-18世紀にフランスの宮廷舞曲となり、器楽曲(特に組曲)にも応用されました。(特に組曲)にも応用されました。活気のある2分の2拍子で、曲はアウフタクトで(2拍目から)始まり、出だしは4分音符2つになっています。単純明快な牧歌風の舞曲です。

5 ブーレ bourrée フランス

正確な起源は不明ですが、フランスのオーヴェルニュ地方で始まったという説もあります。それぞれの地方において2拍子か3拍子のいずれかの拍子で発展しましたが、17-18世紀に宮廷舞踊となり、4分音符1拍のアウフタクトで始まる2分の2拍子の速い舞曲が定型となりました。管弦楽曲や鍵盤楽器のための作品が多くあり、J.S.バッハの組曲でもお馴染みです。

6 ジーク gigue イギリス

バッハやヘンデルのバロック時代の組曲を構成する基本舞曲の一つで、フランスの組曲ではサラバンドの後に、ドイツの舞曲では最後に置かれます。15世紀のジグ(イギリス諸島発祥の踊り)が起源とされていて、17世紀には2拍子系のもも存在しましたが、多くは、8分の3拍子、8分の6拍子、16分の12拍子等の複合拍子になっています。フランス風ジークは、8分の6拍子や4分の6拍子による複雑なアクセント移動とフーガ的な要素、イタリア風ジーク(ジークと呼ばれる)は、急速で単純明快なアルペジオで構成されています。

※各舞曲の形式およびリズム・パターンは、時代、国、作曲家、各作品において、さまざまに変化し、曲によっては大幅に変更されます。ここに示したものは、1つの例として参考にしてください。

舞曲 ピアノ作品リスト 2

(⑦メヌエット〜古典派まで)

⑦ メヌエット

バロック時代

- ムファット:メヌエット1ト長調
- ラモー:メヌエットト長調
- ラモー:メヌエットト短調
- W.F.バッハ:メヌエットト長調
- J.S.バッハ:ヘンデルの多数の作品
- ロカテッリ:メヌエットト長調
- J.S.バッハ:フランス組曲、イギリス組曲、アンナ・マгдаレーナのためのクラヴィア小曲集よりメヌエット

古典派

- L.モーツァルト(父):メヌエットハ長調、二短調、ヘ長調
- L.モーツァルト(父):メヌエットハ長調
- ヴァーゲンザイル:メヌエットハ長調
- W.A.モーツァルト:メヌエット K.V.1・2・4・5・15c.f.94
- W.A.モーツァルト:トリオをもつ8つのメヌエット K.V.315a
- W.A.モーツァルト:メヌエット二長調 K.V.355
- ヒラー:メヌエットIイ長調、メヌエットIIイ短調
- ハイドン:ソナタの中の多数の作品
- ベートーヴェン:メヌエット変ホ長調 Wo082・ト長調 およびソナタの中の多数の作品

18世紀以降、ドイツやポーランドの作曲家によって作られました。ショパンの作品が傑出してきます。

*オベレク・リズムとアクセントが多様される急速な踊り(シヨパンのポロネーズ作品56―2)。

*カヴァイク・ゆったりとした叙情的で流麗な踊り(シヨパンのポロネーズ作品6―6、作品30―4、作品41―1)。



●マズルカ
マズルカ 1882年
ベルンハルト・クレム著
(舞踏芸術の公教要理の挿絵)
[人間と音楽の歴史 19世紀の舞踏]
(音楽之友社)より

11
ポロネーズ
polonaise
ポーランド

ポロネーズは「ポーランドの舞曲」という意味で、実際には特定の舞曲名ではありません。様式化された「ポロネーズ」の起源は、16世紀後半とされており、当初は、舞踊、舞曲、歌の3種類がありました。しかし18世紀になると、舞曲が民俗的なものではなく宮廷の儀式や行列のためのものとなり、勇壮で進行曲的なリズムを伴って発達していきました。

鍵盤楽器の初期の例は、J・S・バッハやヘンデル、またはカール・フィリップ・エマヌエル・バッハ(次男)の作品の中に見られます。その後ベートーヴェンやロマン派の作曲家たちによって作られるようになりますが、とりわけシヨパンは、ポロネーズの英雄的、騎士的精神の象徴としてポロネーズを完成させました。ゆるやかな4分の3拍子で、2拍目にアクセントがつくと、女性終止(弱拍で終止)するのが特徴です。



12
マズルカ
mazurka
ポーランド

ポロネーズ同様、元来は民族舞踊、舞曲、歌の様式で、16世紀後半にヨーロッパに広まりました。速度は遅いものから速いものまでさまざまで、4分の3拍子か8分の3拍子となっています。

部で多く踊られ、アクセントは2拍目か3拍目につきま。旋回の仕方や速度の違いによって、いくつかの種類がありますが、シヨパンは、マズルカ、カヴァイク、オベレクの3つに分類し、洗練された様式でピアノ曲のマズルカを作曲しました。

*マズルカ・マゾフシエ地方に由来する急速な3拍子の踊り。跳ねたり輪になったりするのが特徴。しばしば付点リズムを持ち、第2拍と第3拍に交互にアクセントがつき、フレーズの終わりには第1拍にアクセントが置かれます(シヨパンの一般的なマズルカ)。



13
ワルツ
Walzer
オーストリア

18世紀末からオーストリア・バイエルン地方に発生した、中ぐらいの速さの4分の3拍子の舞曲。基になった舞曲はレントラーです。特に流行したのは19世紀で、1814―1815年の「ウィーン会議」以降、ヨーロッパに広まりました。

パ全土に広まりました。ウィーン・ワルツと呼ばれるものは、1811年に誕生しました。なお、プロヴァンス地方で踊られていたヴォルトというダンスが始まりだという説もあります。

*ウィンナー・ワルツ・19世紀の初め、ランナーとJ・シュトラウス(父)によって確立されたスタイル。テンポは速く、第2拍目がやや早めに出ることで、第3拍目との間に微妙なリズムのニュアンスが与えられます。1つの作品がいくつかの独立した小ワルツからなり、導入部とコーダがついています。ワルツを書いたその他の作曲家には、ヴァルトトイフェル、イヴァノヴィッチ、レハールがいます。シヨパンの《華麗なるワルツ》作品18も、ウィンナー・ワルツの様式です。

7
メヌエット
menuett
フランス

起源は不明ですが、フランスの民俗舞踊のブラン(地方によって拍子、テンポ、踊り方は異なる)が発展したものとされています。フランス語の「ムニユ(小さい)」が語源で、細かいステップが多く使われることに由来しています。1組の男女によって、SやZの図形を描きながら踊られます。17―18世紀の舞踏会(礼装・かつら、半ズボン、帯刀で踊られた)やバロック様式の組曲に使われた舞曲。ゆったりとした4分の3拍子で、2小節が1つの単位となります。

*古典派・第2部(第2メヌエット、またはアルテルナティヴ・反復される)がトリオと呼ばれるようになりまし。トリオという名称は、この部分が第2メヌエットと呼ばれることから3声部で作られていたことに由来します。

8
シチリアーノ
siciliano
シチリア

現在のイタリア共和国のシチリア自治州を構成する地中海最大の島が起源。ゆつくりとした8分の6拍子か8分の12拍子。かなり遅いジグのような感じで、付点のリズムが多く使われます。

14―17世紀には特定の詩の型による歌でしたが、16世紀後半から牧歌的な舞曲として、17―18世紀にはオペラのアリアや器楽曲として流行しました。

9
コントルダンス
contredanse
イギリス

イギリスが起源の民俗舞踊風のダンス。18世紀にフランスを中心に大流行した舞曲。男女が対面して集団で踊ります。主に4分の2拍子で、8小節の繰り返し特徴があります。

舞曲 ピアノ作品リスト 1
(①アルマンド〜⑥ジグ)

1 アルマンド

バロック時代

- リュリ:組曲ホ短調よりアルマンド
- ヘンデル:組曲ホ短調よりアルマンド
- ヘンデル:組曲二短調よりアルマンド
- J.S.バッハ:フランス組曲、イギリス組曲、バルティータよりアルマンド

古典派

- W.A.モーツァルト:クラヴィア組曲よりアルマンドハ短調

2 クーラント

バロック時代

- リュリ:クーラントホ短調
- クーラン:組曲ハ短調よりクーラント
- ヘンデル:組曲ト長調よりクーラント
- ヘンデル:組曲二短調よりクーラント
- J.S.バッハ:フランス組曲、イギリス組曲、バルティータよりクーラント

古典派

- W.A.モーツァルト:クラヴィア組曲よりクーラントハ短調

3 コレンテ

- ヘンデル:コレンテヘ長調
- J.S.バッハ:フランス組曲よりコレンテ

4 ガヴォット

- グルック:ガボット
- フック:ガボットイ長調
- ヴィットハウアー:ガヴォットイ短調
- ヘンデル:ガヴォットト長調
- クーラン:ガヴォットト長調
- クーラン:組曲ハ短調よりガヴォット
- J.S.バッハ:フランス組曲、イギリス組曲よりガヴォット
- J.C.バッハ(末子):ガヴォットハ短調
- ツェルニー:初歩者のためのレクリエーションガヴォット
- アーノルド:ガボット
- おとなのためのピアノ教本2:ガヴォット

5 ブーレ

- W.F.バッハ(J.S.バッハの長男):ブーレロ短調
- L.モーツァルト(W.A.モーツァルトの父):ブーレホ短調
- J.S.バッハ:ブーレヘ長調
- J.S.バッハ:フランス組曲、イギリス組曲よりブーレ
- W.F.バッハ:ブーレ
- メードローズピアノ教則本ピアノの1年生:ブーレ
- Miyoshiピアノ・メソッドvolume8:練習曲268 ラヴェンダーたちのブーレ

6 ジグ

- リュリ:ジグホ短調
- ラモー:ロンド風のジグト長調
- ラモー:ロンド風のジグ第2番ホ長調
- デレマン:ジグト長調
- ヘンデル:組曲ト短調よりジグ
- ヘンデル:組曲ト長調よりジグ
- J.S.バッハ:フランス組曲、イギリス組曲、バルティータよりジグ
- *フランス風ジグの例:
J.S.バッハフランス組曲第4番のジグ
- *イタリア風ジグ(ジーガ)の例:
J.S.バッハフランス組曲第5番のジグ

10
エコセーズ
ecossaise
イギリス/フランス

「スコットランド舞曲」という意味ですが、スコットランドとの関係は不明で、むしろイギリスの「田園舞曲」が起源、あるいはフランス起源という説もあります。

1780年ごろ、イギリスとフランスに現れ、19世紀初頭に流行した2拍子系の活発な舞曲です。

舞曲 ピアノ作品リスト 4

⑧シチリアーノ～⑫マズルカ

8 シチリアーノ

- J.S.バッハ=ケンペ:2本のフルートのためのソナタよりシチリアーノ BWV1031 (偽作)
- モン:シチリアーノ 変ロ長調
- W.A.モーツァルト:シチリアーノ 二短調 K.V.15
- W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲 第23番 イ長調より 第2楽章
- フォーレ:シシリエンヌ 作品78

9 コントラダンス

- W.A.モーツァルト:コントラダンス ヘ長調 K.V.15h
- ベートーヴェン:3つのコントラダンス(4手)
- ショパン:コントラダンス 変ト長調

10 エコセーズ

- ベートーヴェン:6つのエコセーズ 変ホ長調 Wo083
- シューベルト:6つのエコセーズ D.529・783・816
- ショパン:3つのエコセーズ 作品72-3

11 ポロネーズ

- バロック時代
- J.S.バッハ:ポロネーズ ト短調 BWV Anh.1.19
 - J.S.バッハ:ポロネーズ ト短調
 - J.S.バッハ:ポロネーズ ト長調
 - J.S.バッハ:フランス組曲 第6番 より ポロネーズ
 - J.S.バッハ:アンナ・マグダレーナのためのクラヴィア小曲集 より ポロネーズ
 - キルンベルガー(J.S.バッハの弟子):ポロネーズ 変ホ長調
- 古典派
- W.F.バッハ(長男):12のポロネーズ
 - F.X.モーツァルト(次男):6つの感傷的なポロネーズ 作品17
 - F.X.モーツァルト(次男):4つの感傷的なポロネーズ 作品22
 - F.X.モーツァルト(次男):2つのポロネーズ 作品26
 - ベートーヴェン:ポロネーズ 八長調 作品89
 - ツェルニー:初歩者のためのレクリエーションポロネーズ
- ロマン派
- シューベルト:4つのポロネーズ D599 作品75-1(4手)
 - オギニスキ:ポロネーズ イ短調《さらば祖国よ》
 - クルピニスキ:ポロネーズ ヘ長調
 - シュモール:ポロネーズ 作品50
 - エスタン:ポロネーズ 作品155-4
 - ショパン:ポロネーズ ト短調 遺作
 - ショパン:ポロネーズ 変イ長調 遺作 他多数
 - ライネック:セレナーデ 第2番 より ポロネーズ

12 マズルカ

- ベール:ポルカ=マズルカ 作品490-3
- エスタン:ポルカ=マズルカ 作品155-2
- チャイコフスキー:こどものためのアルバムよりマズルカ 作品39-10
- チャイコフスキー:踊りのためのマズルカ 18の小品 より 作品72-6
- ニコライ・ルービンシュタイン(リストの弟子):2つのマズルカ 作品11
- トンブソン:現代ピアノ教本1:小さなポーランドのおどり マズルカ
- 池辺晋一郎:人形のマズルカ

なりました。スーザの《星条旗よ永遠なれ》が有名です。この曲の形式は、導入部・主部・トリオ・主部・トリオ・主部となっています。

一方、芸術的な行進曲には、軍隊行進曲、戴冠式行進曲、凱旋行進曲、結婚行進曲、祝典行進曲、葬送行進曲等があります。「行進する」ための曲ですので、規則的なリズムと楽節構造を持ち、ふつうは2拍子か4拍子系となっています。形式は、主部・トリオ・主部の複合3部形式が大半を占めています。

19 行進曲

marsch
古代ギリシア

実用的な行進曲は、古代ギリシアが発祥の地で、今日につながる曲種としては16世紀にさかのぼります。17世紀に軍楽の整備とともに行進曲は発展してきます。19世紀には、吹奏楽の中心となる曲として演奏されるようになります。

20 タランテラ

tarantelle
イタリア

中世のイタリアのナポリにおいて発生した舞曲で、8分の3拍子、または8分の6拍子の速い曲です。その名はタラントという町の名前からつけられました。毒蜘蛛のタランチュラ(この名前もタラントに由来する)に噛まれたとき、その毒を抜くには踊り続けなければならないとされ、その踊りのための曲としてタランテラが生まれたと言われています。

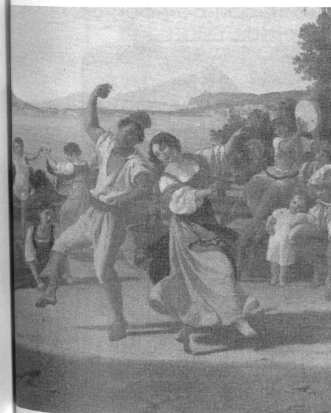
マンドリンやタンバリンの演奏に合わせて、一人よりグループ、特にカップルや女性同士のペアで踊られることが多い舞曲です。最初は右回りに踊りますが、曲の一区切り毎に回る方向が変わり、テンポも速くなります。これが何回か繰り返されるうちに、遅れずについていくのがだんだん難しくなっていきます。

21 パヴァーヌ

pavane
スペイン

16世紀初頭にヨーロッパの宮廷で普及した舞踏。王侯貴族が穏やかにかしまって行列を組んで踊ります。スペイン起源のゆっくりとした2拍子の舞曲とされていますが、パヴァーヌの名称は、イタリアの「パドヴァ」の踊り(パドヴァーナ・padovana)から、または、一列に並んだ女性の姿を孔雀(ラテン語でパヴォ・pavo、スペイン語でパヴォン・pavon)の尻尾に見立ててつけられたと言われています。

パヴァーヌは、イングランドやフランス、イタリアの舞踏の教本に登場し、ガリアルドとしばしば組み合わされています。1630年代中ごろには時代遅れとなり、パヴァーヌはルイ14世の宮廷でアルマンドに席を譲ることになりました。エリザベス1世は、ガリアルドとパヴァーヌが大好きでした。



●タランテラ
バハの入り江でのタランテラ 1823年ごろ
フランツ・ルートヴィエ・カテル
ミュンヘン/ノイエ・ピナコテーク蔵
『人間と音楽の歴史 19世紀の舞踏』
(音楽之友社)より

15 ポルカ

polka
ボヘミア

1830年ごろ、ボヘミアで生じた4分の2拍子の急速なテンポを伴うカップル・ダンス(男女が組み合って踊るダンス)。すぐにヨーロッパ全土に広まりました。スメタナ、ドヴォルザークの作品が有名。ポーランドの民族舞曲「クラコヴィアク」に由来するという説もあります。

17 スラブ舞曲

slavische tänze
ボヘミア

ヨーロッパ諸民族中、最大の民族であるスラブ人の中でも、西スラブ族はポーランド、チェコ、スロヴァキアに住んでいます。「ボヘミア」とはチエコ西部の歴史的名前で、1918年までハプスブルク家(オーストリア)の支配下にありました。

ドヴォルザークの「スラブ舞曲集 第1集 作品46」は1878年に、「第2集 作品72」は1886-1887年に書かれ、オーストリアの属国であった独立前のスラブ人の「悲しい歴史と哀愁」を帯びた作品となっています。原曲はピアノ連弾用です。

舞曲 ピアノ作品リスト 3

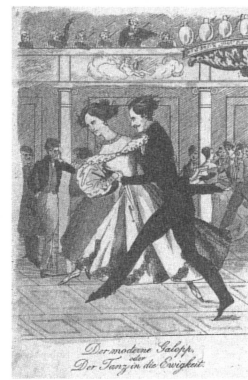
(7)メヌエット～ロマン派以降

7 メヌエット

- ロマン派
- シューベルト:3つのメヌエット D.41
 - ベルティエニ:メヌエット小品集 より 第8番
- 近代・現代
- ドビュッシー:小組曲 より 第3曲 メヌエット
 - コルダ:メヌエット(4手)
 - バスティン:ピアノベーシックレベル1:メヌエットをおどろろ
 - バスティン:ピアノベーシックレベル4:メヌエット
 - メトード:ローズピアノ教則本 ピアノの1年生:バラ色のメヌエット
 - ラーニング・トゥ・プレイ ブック3:メヌエット
 - バスティン おとなのピアノ教本Book1:ト長調のメヌエット
 - バスティン おとなのピアノ教本Book2:メヌエット

14 ギャロップ

gallop
ドイツ



●ギャロップ
当世ふうギャロップ、または、天国に召されるまでの舞踏 1838年
作者不詳
『人間と音楽の歴史 19世紀の舞踏』
(音楽之友社)より

ドイツ起源の舞曲の1つ。語源は「馬の駆け足」で、非常に速い4分の2拍子の輪舞です。1825年-1875年ごろ、一連の舞曲を踊った最後に踊る舞曲として流行しました。オッフェンバックの《天国と地獄》、リストの《半音階の大ギャロップ》が有名です。

16 トルコ行進曲

turkischer marsch
オーストリア

ウィーンは、16世紀前半にオスマン帝国(イスラム勢力)の10万以上の軍勢が城壁まで迫った第1次ウィーン包囲と、1683年の第2次ウィーン包囲に見舞われましたが、いずれもオスマン帝国の進撃を退けることに成功しました。異教徒との衝突は、同時に文化的交流も引き起こし、ウィーンにコーヒー(カーヴァ)とトルコの軍楽隊の音楽をもたらしたのです。トルコの音楽はヤニチャレンムジークと呼ばれ、この、長調と短調が交互に現れる行進曲を模したものが、18世紀のウィーン等で大流行しました。

代表作に、ベートーヴェンとモーツァルトの作品があります。また、トルコ行進曲を演奏するために、「打楽器を内蔵した(ペダルで打楽器を操作する)ピアノ」も製作されました。

18 ハンガリー舞曲

ungarischer tanz
ドイツ

このラッシュとフリッツシュを模したブラームスの「ハンガリー舞曲集全4集」(21曲)は、1868年と1880年にピアノ連弾曲として大変流行しました。

ハンガリーの民族舞曲のチャールダーシュ(20)は、本来ジプシーの舞曲でした。4分の2拍子で、ゆるやかな導入部のラッシュ(メランコリックで強いシンコペーションが特徴的)と、急速な主部のフリッツシュ(執狂的な部分)で構成されています。

*ハンガリー舞曲は、ドイツ人のブラームス(当時オーストリアに在住ですが)が考案したもので、発祥地をドイツとしました。

22
ガリアルド(ガイアルド)
gaillarde
フランス

1400年ごろフランスで普及した舞曲。急速な3拍子で飛び跳ねる踊りです。しばしばバヴァーヌと組み合わせられます。「バヴァーヌ」―「ガリアルド」の組み合わせは、後にバロック時代の組曲を構成する「アルマンド」―「クラーント」の組み合わせへと変わっていきます。もともとは民衆の舞曲でしたが、15世紀末までにヨーロッパの数多くの宮廷に採用されました。16世紀の舞踏教本には、多くのバリエーションが記されています。

この舞曲は、1人で踊ることも、またパートナーと一緒に踊ることもできますが、宮廷社会においては常にパートナーと踊るものとされました。

23
レントラー
Ländler
オーストリア(南ドイツ)

南ドイツ・オーストリアのバイエルン・ボヘミア地方の4分の3拍子の緩やかな民族舞踊です。18世紀末ごろまで、ドイツ、オーストリア、スイスで踊られました。

現在のチロル州とバイエルン州の農民が13世紀ごろから踊っていたヴェッラー(Waller)から発展したものです。田舎風の衣装で2人1組になって飛んだり跳ねたりする踊りで、伴奏には楽器が使われますが、ヨーデルのような歌が入ることもあります。

8小節ずつの2つの部分からなり、それぞれが2回ないし数回反復されます。

19世紀のヨーロッパで舞踏会が一般的になると、レントラーに、より速いテンポ、さらなる優雅さが追求されるようになり、男性はホブナイル(Hobnail・底に釘が打ち付けてある長靴)を身につけて踊るようになりました。これがウインナー・ワルツの前身となります。

24
ファンダンゴ
fandango
スペイン

スペイン南部アンダルシア地方の舞曲で、18世紀初頭の文獻に登場しますが、実際はもっと古い時代が起源とされています。フラメンコの音楽でも代表的なものとなっていて、ギターの伴奏と歌とともにベアの踊り手がカスターネットを鳴らしつつ踊ります。細かい3拍子系リズムを特色としています。

●バステイン おとなのピアノ教本Book1: 美しく青きドナウ
●バステイン おとなのピアノ教本Book2: メリーウイドワルツ
●バステイン おとなのピアノ教本Book2: ワルツ
●バステイン おとなのピアノ教本Book2: 白鳥のワルツ

舞曲 ピアノ作品リスト 5
(⑬ワルツ)

- 13 ワルツ
- クレメンティ:ワルツ 八長調&ト長調
 - ベートーヴェン:ワルツ 変ホ長調 Wo084
 - ツェルニー:初歩者のためのレクリエーション オーストリア風のワルツ
 - 同 フランスの歌によるワルツ
 - 同 シュトラウスのワルツ
 - 同 モーツァルトのワルツ
 - 同 ファンメルによるワルツ
 - 同 ガレンベルク伯爵のワルツ
 - 同 ウェーバーによるワルツ
 - シューベルト:高貴なワルツ D.969
 - シューベルト:感傷的なワルツ D.779
 - ショパン:ワルツホ長調(遺作)KKIVa-12&ワルツ短調(遺作)KKIVb-11
 - シューマン:音楽帳 作品124 より ワルツ
 - エステン:妖精のワルツ 作品115-6
 - ラインホルド:ワルツト長調 作品39 より
 - グルリット:高貴なワルツ
 - ブラームス:ワルツ 作品39
 - ゲディケ:ゆるやかなワルツ
 - チャイコフスキー:こどものためのアルバムより ワルツ 作品39-8
 - チャイコフスキー:5拍子のワルツ 18の小品 より 作品72-16
 - カバレフスキー:子供のためのピアノ曲集 作品27 より ワルツのように
 - カバレフスキー:24のやさしい小曲集 より ゆるやかなワルツ
 - カバレフスキー:35のやさしい小曲集 より ワルツのように
 - カバレフスキー:6のピアノ小曲集 子どもの夢 作品88 より 風変わりなワルツ
 - グリーグ:叙情小曲集 作品12-2 より ワルツ
 - グリーグ:ワルツ 作品38-7
 - ニコライ:ルービンシュタイン(リストの弟子):ワルツ 作品16
 - ラフマニノフ:6つの小品 作品11 より ワルツ(4手)
 - ハチャトリアン:ちいさなワルツ(4手)
 - ハチャトリアン:マスカレードより ワルツ(4手)
 - ハチャトリアン:古いワルツ
 - セヴラック:ロマンティックなワルツ
 - ギロック:ワルツを踊ろう
 - ギロック:ウインナーワルツ
 - ギロック:ワルツエチュード
 - ミニョーネ:12の街角のワルツ
 - マーサ・ミアー:はじめてのワルツ(4手)
 - メリカント:ワルツ・レント
 - 三善寛:三どのワルツ
 - 香月修:スペイン風のワルツ
 - 佐々木邦雄:天使のワルツ(4手)
 - バステインピアノベーシックレベル3:ウインナワルツ
 - みんなのオルガンピアノの本3:ワルツ
 - みんなのオルガンピアノの本4: 優美なワルツ
 - トンプソン現代ピアノ教本1: 星明りのワルツ
 - みんなのグローバー・ピアノレッスン(Vol.2):ハ長調のワルツ、ハ長調のワルツ
 - おとなのためのピアノ教本2: 美しく青きドナウ
 - おとなのためのピアノ教本3: テネシー・ワルツ
 - バステイン おとなのピアノ教本Book1: 左手のワルツ
 - バステイン おとなのピアノ教本Book1: ヴィオラのワルツ

25
ボレロ
bolero
スペイン

18世紀末が起源ですが、1780年ごろに舞踏家セレンが創作したとも言われています。3拍子で、元来は歌にかスタネットやギターでリズムをつけ、1人またはペアで踊るダンスでした。19世紀にヨーロッパ全体に広まりました。

18世紀末が起源ですが、1780年ごろに舞踏家セレンが創作したとも言われています。3拍子で、元来は歌にかスタネットやギターでリズムをつけ、1人またはペアで踊るダンスでした。19世紀にヨーロッパ全体に広まりました。

26
フォリア
folia
ポルトガル/スペイン

イベリア半島起源の舞曲。15世紀末のポルトガル、あるいはスペインが起源とされています。サラバンドと同じ3拍子の緩やかな舞曲です。フォリアとは、「狂気」あるいは「常軌を逸した」の意味で、その言葉からイメージする通り、元来は非常にテンポの速い曲でしたが、17世紀になると優雅で愛いを帯びた曲へと変化しました。

27
セグディーリア
seguidilla
スペイン

スペイン南部アンダルシアを代表する民族舞曲、および歌ですが、スペイン各地で見られます。ボレロに似ていますが、ボレロよりもテンポはかなり速めです。

3拍子で中ぐらいの速度。ギターの伴奏とカスターネットのリズムにのって、歌いながら何組かのペアで踊られます。

28
カドリーユ
quadrille
フランス

18世紀末から19世紀初頭にかけてフランスに起こり、後にイギリスやドイツで流行した舞曲。

18世紀末から19世紀初頭にかけてフランスに起こり、後にイギリスやドイツで流行した舞曲。

キューバでは19世紀に2拍子のダンスとなり、ルンバの元となったソーンに影響を与えました。キューバで衰退した後、メキシコへと広まり、19世紀末から踊り始められ、1950年代にはラテンアメリカ全体に広まりました。演奏にコンガやアコースティックな楽器を使うのが特徴で、ボレロ歌手ではホセ・フェリシアーノ、イーディ・ゴメスが有名です。

アメリカ合衆国では、社交ダンスの種目としてのボレロに人気があります。これはルンバのバターンと、ワルツやフォックストロットの性格が結びついたもので、4拍子のラテン・ダンスの中でもっともゆっくりとしたリズムのものでした。

短音階で作られ、低音部の和声進行が特定の「固執低音・バツ・オスティナート」(イ短調の場合:A.E.A.G.C.G.A.Eのように)に基づく変奏曲です。

17世紀にはイタリアで大流行し、その作曲技法は、シヤコンヌやバツサカリアなどの変奏曲、あるいは有名な《バツヘルベルのカノン》と同類です。

ピアノ曲ではありませんが、アルカンジェロ・コレッリの『ヴァイオリンと通奏低音のためのソナタ』作品5より《ラ・フォリア》がもっとも有名です。



●レントラー
教会堂開基祭の踊り 1880年ごろ
アーロイス・グライル
リンツ市立美術館蔵
『人間と音楽の歴史 19世紀の舞踏』
(音楽之友社)より



●カドリーユ
ランサーズ・カドリーユ 1864年
『人間と音楽の歴史 19世紀の舞踏』
(音楽之友社)より

舞曲 ピアノ作品リスト 6 (14ギャロップ~33フラメンコ)

14 ギャロップ

- ストリーボック:ギャロップ(ガロップ)
- カバレフスキー:24の小曲集 作品39 より ギャロップ
- ショルツ編:走れ、こまよ、ギャロップで

15 ポルカ

- ドヴォルザーク:ポルカ ホ長調、変ロ長調
- スメタナ:ポルカ 多数
- ケーラー:ポルカ 作品210-13
- ケーラー:ポルカ 作品300 より
- ケーラー:半音階的ポルカ 作品300 より
- チャイコフスキー:こどものためのアルバム より ポルカ 作品39-14
- プレスラウアー:ポルカ
- カバレフスキー:かわいいポルカop.39-2
- グローバー:ポルカで踊ろう(4手)
- コルダ:靴屋のポルカ(4手)
- みんなのグローバー:ピアノレッスン《Vol.4》:サタデー・ナイト・ポルカ
- ラーニングトゥプレイ ブック3:人形のポルカ

16 トルコ行進曲

- ベートーヴェン:トルコ行進曲
- モーツァルト:トルコ行進曲
- 大人のためのピアノ悠々塾初級編改訂版:トルコ行進曲

18 ハンガリー舞曲

- おとなのためのピアノ教本3:ハンガリア舞曲 第5番

19 行進曲

- アンナ・マグダレーナのためのクラヴィア小曲集 より マーチ
- C.P.E.バッハ(次男):マーチニ長調・ト長調
- モーツァルト:葬送行進曲 K.V.453a
- チェルニー:ウィンナーマーチ
- シューベルト:3つの軍隊行進曲 D.733 (連弾)
- シューベルト:3つの英雄的行進曲 D.602
- ラインホルド:行進曲 八長調 作品39 より
- ショパン:葬送行進曲(ソナタ第2番 作品35 より)
- ショパン:葬送行進曲 八短調 作品72-2
- ケーラー:おたんじょうびのマーチ
- ケーラー:行進曲 ピアノ練習曲 作品300 より
- カバレフスキー:子供のためのピアノ曲集 作品27 より マーチ
- カバレフスキー:24の小品集 作品39 より 行進曲風に
- カバレフスキー:24の小品集 作品39 より マーチ
- カバレフスキー:35のやさしい小品 作品89 より マーチ
- カバレフスキー:3つのロンド オペラ「コラ・ブルニョン」より マーチ 作品30-3
- J.B.シュトラウス:ラデツキー行進曲(連弾)
- バスティン:Forward March
- J.クラーク:マーチ
- 奥村:ロボットのマーチ
- バスティンピアノベーシックスレベル1:マーチ
- バスティンピアノベーシックスレベル3:マーチ、三つ子のマーチ
- みんなのグローバー:ピアノレッスン《導入編》:マーチング・バンド

20 タランテラ

- ブルグミュラー:25の練習曲 タランテラ
- ヘラー:タランテラ
- リスト:巡礼の年 第2年補遺ヴェネツィアとナポリ 第3曲 タランテラ
- ロッシェニ=リスト:音楽の夜会より 第8曲《タランテラ・ナポレターナ》
- ショパン:タランテラ 作品43
- プロコフィエフ:タランテラ 作品65-4
- ガルシヤ:タランテラ(4手)
- アガファニコフ:タランテラのように
- バスティンピアノベーシックスレベル1:タランテラ
- みんなのオルガンピアノの本4:タランテラ
- ラーニングトゥプレイ ブック3:タランテラ

21 パヴァーヌ

- ウィリアム・バード:パヴァーヌ
- トマス・モーリー:パヴァーヌ
- ヤン・ピーテルスゾーン・スウェーリク:パヴァーヌ
- ジョン・ダウランド:《涙のパヴァーヌ》

- オーランド・ギボンズ:パヴァーヌ
- ザムエル・シャイト:パヴァーヌ
- ラヴェル:亡き女王のためのパヴァーヌ
- ラヴェル:マ・メール・ロワ より《眠りの森の美女のパヴァーヌ》

22 ガリアルド

- ジョン・ブル:ガリアルド
- ウィリアム・バード:ガリアルド

23 レントラー

- モーツァルト:3つのレントラー
- ベートーヴェン:7つのレントラー、6つのレントラー
- シューベルトウィーンの婦人のレントラー D.734他多数
- テリユク:朝のおおそび、レントラー(4手)
(映画「サウンド・オブ・ミュージック」では、マリアとトラップ大佐がレントラーを踊ります)

24 ファンダンゴ

- グラナドス:ゴイエスカ 第3曲《ともし火のファンダンゴ》
- シューマン:ピアノソナタ 第1番 嬰へ短調 作品11
(第1楽章の主題は、前作「アレグロ・ファンダンゴ 嬰へ短調」から導き出されています)
- ラーニングトゥプレイ:ファンダンゴ(4手)
- M.ステッカー/N.ホロヴィッツ:ファンダンゴ(4手)

25 ポレロ

- ショパン:ポレロ 作品19
- ロッシェニ=リスト:音楽の夜会より第3曲《誘い》(ポレロ)

26 フォリア

- アレクサンドロ・スカルラッティ(父):スペインのフォリア
- フランツ・リスト:スペイン狂詩曲の前半部分
- ラフマニノフ:《コレリリの主題による変奏曲》作品42のテーマ

27 セギディーリア

- アルベニス:スペインの歌より セギディーリア

28 カドリュー

- 17世紀のカドリュー(1)(2)(やさしいインヴェンション)
- ハイドン:カドリュー(3拍子)

29 チャールダーシュ

- リスト:ハンガリー狂詩曲
(ラッシュとフリッシュを持つチャールダーシュの要素をたくみに取り入れて作曲)
- チャー:チャールダーシュ・ラブソング

30 リゴードン

- H.パーセル:リゴードン
- ラモー:リゴードン
- ヘンデル:リゴードン
- ラヴェル:クーブランの墓より 第4曲 リゴードン

31 ミュゼット

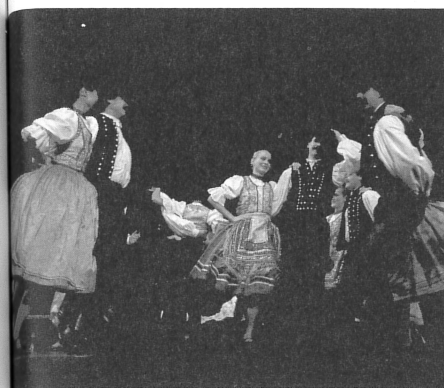
- F.クーブラン:ミュゼットによってクラヴサン作品
- J.Ph.ラモー(1683-1764):ロンド風ミュゼット
- アンナ・マグダレーナのためのクラヴィア小曲集 より ミュゼット
- J.S.バッハ(1685-1750):イギリス組曲 第3番 ガボットII (ミュゼット)
- みんなのオルガンピアノの本3:かわいいミュゼット
- メトードローズピアノ教則本 ピアノの1年生:かわいいミュゼット
- バスティン おとなのためのピアノ教本Book1:ミュゼット
- バスティン おとなのためのピアノ教本Book2:ミュゼット

32 パスピエ

- F.クーブラン:第2オルドル 第9曲 パスピエ
- J.S.バッハ:イギリス組曲 第5番 パスピエI パスピエII
- ドビュッシ:《ベルガマスク組曲》終曲 パスピエ
(行進曲調の踏み踊りとして作曲されています)

33 フラメンコ

- ギロック:フラメンコ(ギロックピアノピースコレクション1)



●チャールダーシュ
写真提供:増永哲男(フォークロルレポート)
写真 CSARDAS OF BUDAPEST DANCE ENSEMBLE
http://www.folklor.com/

他の多くのハンガリー音楽と特徴が同じで、導入部の速い「ラッシュ」(lassú/lassan)と、主部の速い「フリッシュ」(friss/friska)で構成されます。ラッシュはかなり遅く、哀愁を持って演奏され、2拍子のフリッシュは、頻繁に行われる強いシンコペーション、一定の終止形が特徴的です。
また、メロディーには民謡の旋律がたびたび使用されます。

踊った舞曲)から派生し、実際にはユダヤ系作曲家、ロージャヴェルジ・マールクが作った楽曲のタイトルからこの名が広まりました。1840年代に社交界に紹介され、80年代にかけて人気を博しました。
ピアノ曲ではありませんが、ヴィットーリオ・モンテの作品がもっとも有名なチャールダーシュです。

29
チャールダーシュ
●ハンガリー語:csárdás,
●スロヴァキア語:čardáš
ハンガリー

民族的要素が様式化されたハンガリーの音楽と舞踊で、チャールダーシュは「酒場風」という意味です。
ヴェルブニコシュ(18世紀に新兵を募集するために、ロマ(ジプシー)の楽器伴奏で兵士たちが

躍のあるステップが特徴的です。全体は、3つまたは4つの部分で構成されています。イギリスには8分の6拍子のものがあります。

30
リゴードン
rigaudon
フランス

南フランスのプロヴァンス地方で生まれた民族舞踊。ルイ13世時代の17世紀から18世紀にかけて、フランスの宮廷で踊られました。また、イギリスでも流行しました。
2拍子の速い舞曲で、跳

踊のあるステップが特徴的です。全体は、3つまたは4つの部分で構成されています。イギリスには8分の6拍子のものがあります。

31
ミュゼット
musette
フランス

ミュゼットとは、フランスの地方で愛好された民族楽器の名前です。ふいご式の風袋のついた一種のバグパイプで、ドローン管という管によって低音の持続音を出すことができます。この楽器はミュゼット・ド・クール(musette de cour)、またはバロック・ミュゼット(baroque musette)と呼ばれます。17-18世紀のフランスの貴族社会、とりわけブルボン王朝において、ハデー・ガデー(9世紀ごろから使われた弦楽器のような胴体を持ち、3本から6本の弦を回転する輪で擦って演奏する楽器)とともに「農民」の楽器として親しまれました。

この楽器の持続音の響きを模した牧歌的な舞曲をミュゼットと呼びます。

33
フラメンコ
flamenco
スペイン

スペイン南部のアンダルシア地方で発生した音楽と舞踊による表演芸術。ヒタノ(ジプシー)の性格を濃厚に反映していて、彼らや、彼らが住んだ土地の人々によって受け継がれていきました。カンテ(歌)、バイレ(踊り)、トケ(ギター演奏)の3者が一体となり、手拍子や掛け声を伴いながら演じられます。

かなステップを表しています。アフタクトで始まる8分の3拍子ないしは8分の6拍子の速い舞曲。

32
パスピエ
passepied
フランス

ブルターニュに起源を発し、17-18世紀にフランスの宮廷で流行した舞曲です。
「パスピエ」という語は、「passa-pied」ないしは「passe-pied」が語源。「通行する足」という意味で、この舞曲に特徴的な軽や

11 ポロネーズ

A B A'

13 ワルツ

A B A'

15 ポルカ

序奏 ポルカ トリオ 序奏 ポルカ

20 タランテラ

A B A コーダ

12 マズルカ

A B A'

14 ギャロップ

A B A'

19 行進曲

主部 トリオ 主部

(複合3部形式)

または

主部 トリオ 主部 トリオ 主部

☆曲のはじめに短い導入部がつくこともあります。

21 バヴァーヌ

A A' B B'

舞曲のリズム一覧

1 アルマンド

A :|| B :||

3 コレンテ

A :|| B :||

(J.S.バッハ)

5 ブーレ

第1ブーレ :|| 第2ブーレ :||

D.C. bourrée I

7 メヌエット

第1メヌエット :|| 第2メヌエット (アルテルナティヴ) :||

D.C. menuet I

↓

古典派

トリオ :||

D.C. menuet I

9 コントラダンス

A (8小節) :|| B (8小節) :|| ~

2 クーラント

A :|| B :||

4 ガヴォット

A :|| B :||

(AにD.C.する場合も多い)

6 ジーグ

A :|| B :||

8 シチリアーノ

A B A'

10 エコセーズ

A (8小節) :|| B (8小節) :|| ~

著名ピアニストも使っている **ピアノテックスと防音・耐地震ゴム台** **ゴム台証明される音色も良くなる**

■堅型用もあります

- 6帖で250万円位の防音費が数万円でOK!!
- 特許の助響板が音量音色で理想的処理。
- 当社のゴム台は音色もクリアにします。

グランドピアノ用
ピアノテックス ¥58,800 (税込) (C2,C3用)
ゴムマット(1台分) ¥8,820 (税込)・¥15,750 (税込)

堅型ピアノ用
ピアノテックス ¥53,550 (税込)
(堅型、グランド型共取付費別途)

カタログ及び資料をお送りいたします。直販もOKです。
教育楽器販売株式会社
住所: 〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-27-22
電話: 03(3410)8009 FAX(ダイヤル): 0120(11)4269
<http://www.Kmusik.net>

【黒・茶2色】
地震・防音兼用型/防音専用型
¥16,275 (税込) ~ ¥10,395 (税込) ~
PP印金属板入りゴム台

スペシャル対談

ピアノは「歌う」楽器です

音楽的メッセージを
伝えられる楽器

——今回、「雁部一浩ピアノリサイタル」のDVD（タカギクラヴィア NKS-V-188）が発売になりましたが、この演奏会で使われている1887年製のニューヨークスタインウェイの魅力について、演奏者の雁部さんと、ピアノプロデューサーの高木さんに各々の立場から語っていただき、ピアノという楽器が本来もつ魅力と、それを音楽的に演奏するための音楽性やテクニクの諸問題について明らかにできたらと思っています。

●ピアニスト・作曲家
雁部一浩
Gambe Kazuhiro

●タカギクラヴィア株式会社
代表取締役社長・ピアノプロデューサー
高木 裕
Yu Takagi

雁部一浩 ●後期ロマン派の作風で、主要作品に近代詩による歌曲集の他、「ピアノの為の幻想曲」「ピアノ三重奏の為のロマンス」「フルートとピアノの為のロマンスとソナチネ」（以上、音楽之友社刊）。ピアニストとしても活動し、各地でのリサイタルの他、声楽、器楽を含む数々のアンサンブルを行う。CDに「雁部一浩ヴァンテージピアノアルバム」「雁部一浩ピアノアルバム」「平野忠彦が唱う雁部一浩歌曲の世界」などがある。各地での講演や執筆も多い。著書に「ムジカノーヴァ叢書『ピアノの知識と演奏』（音楽之友社刊）。

高木 裕 ●タカギクラヴィア株式会社 代表取締役社長・ピアノプロデューサー。コンサート・チューナーとして、内外のアーティストのコンサートや、国内外でのレコーディングを数多く手掛ける。93年より自社のコンサートグランドピアノ持ち込みを開始し、理想のアーティスト・サービスを実現、業界の常識を覆す。03年ニューヨークに現地法人「TAKAGI KLAVIER USA」を設立する。

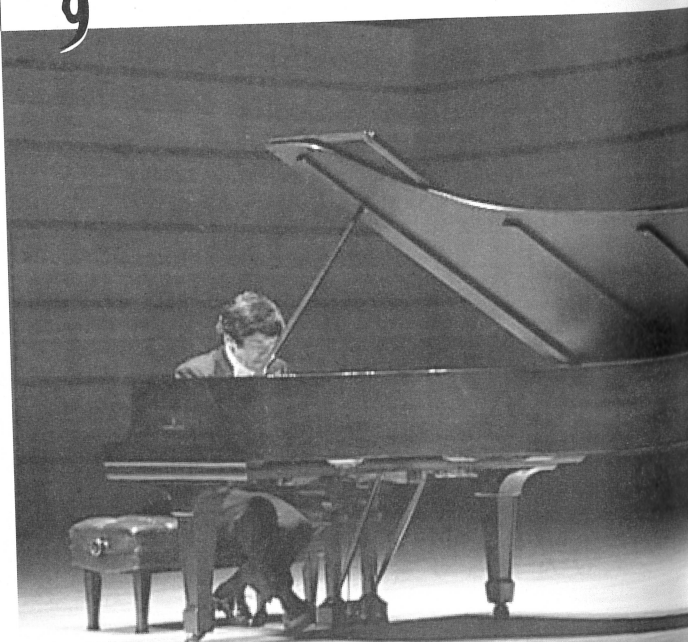
ではまず、雁部さんは、最近のレコーディングや演奏会ではほとんどのヴァンテージピアノを使っているという理由はどこにありますか？

雁部 古い楽器を使うということに関しては、皆さん様々な理由があると思います。普通の楽器とは違う音色を出したいという場合もあるでしょうし、作曲家の生きていた時代の楽器を使っている当時のスタイルを再現したいという、いわゆるピリオド楽器へのこだわりや歴史的観点を主張する人もいます。しかし私の場合は、今作られている普及している楽器を含めた全ての選

択肢の中から、自分の表現したい音楽のためにもっとも好ましい楽器を選んだ結果、この高木さんのヴァンテージピアノ「ローズウッド」を使っているということなのです。「ローズウッド」が楽器として魅力的だということに尽きるのです。

高木さんにとって、技術者の観点からみて、この楽器の魅力はどのようなどころにあるのですか？

高木 ピアノの歴史は300年と言いますが、19世紀のリストの時代になって、ほぼ現在の形になりました。もっとクラシック音楽は室内楽からオーケストラへと発展していきましたが、作曲家にとって、ひとつの楽器で多くの音を出せるピアノという楽器はとて



22 ガリアルド

A A' B B' ~

3/4 ♩ | ♩. | ♩ ♩ | ♩ ♩ | ♩ ♩ | ♩. ~

23 レントラー

A (8小節) :|| B (8小節) :||

3/4 または 3/8 ・AとBのそれぞれが2回ないし回数反復される

24 ファンダンゴ

3/4 ♩ ♩ ♩ ♩ (または ♩ ♩ ♩ ♩)

25 ポレロ

3/4 ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ~

または

3/4 ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ~

26 フォリア

A A' A'' ~

低音部は一定の和声進行を反復していく
固執低音(バス・オスティナート)

3/4 ♩ ♩ ♩ ♩ | ~ (コレッリ)

27 セギディーリア

3/4 ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ~ (アルベニス)

28 カドリーユ

A B C D E ||

5つの部分の拍子や速度は異なる

30 リゴードン

1 || 2 || 3 ||

1ハD.C.

♩ ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ~ (ラモー)

31 ミュゼット

A :|| B :||

2 持続音 8 (J.S.バッハ)

32 バスピエ

A B A C A ||

3/8 ♩ | ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ ♩ | ~ (J.S.バッハ)